

平成28年度 第2回 三種町総合教育会議議事録

- 1 開催日時 平成29年2月21日（月）午後1時30分
- 2 開催場所 琴丘地域拠点センター 研修室
- 3 出席者 三種町長 三浦 正隆
三種町教育委員会 委員長 堀田 キミ子
委員 佐々木 孝一
委員 嶋田 博光
委員 水野 京子
教育長 鎌田 義人
- 4 欠席者 なし
- 5 事務局 総務課長 木村 信悦 課長補佐 石井 靖紀
教育次長 畠山 広栄 次長補佐 後藤 誠
主席主査 成田 直広
- 6 傍聴者 2名
- 7 内容 次のとおり

午後1時30分開会

畠山教育次長 皆さんお疲れ様です。本日はお忙しい中、会議にご出席いただきましてありがとうございます。

それでは第2回総合教育会議を開催させていただきます。始めに町長よりご挨拶をお願いいたします。

三浦町長 皆さん、こんにちは。今日は大変吹雪いてですね。非常に天候の変わりやすい日でございますけれど、足元の悪いところご出席をいただきまして感謝申し上げます。また、平素皆様には町の教育全般に関しまして、ご尽力を賜りまして心から感謝申し上げます。

先週の土曜日曜といろいろな行事がありました。皆さんと何回もお会いしておりますけれど、土曜日午前中のスポーツ文化栄誉賞の授賞式はすごく素晴らしかったです。

そして、午後の福祉フォーラム。これもまた、子どもの貧困について福祉課とですね、本来は教育委員会も一緒に開催すればよかったのかなと思いましたが、子どもの貧困の話題が4時まで2時間半にわたり勉強させていただきました。

日曜日は水野先生も大変活躍されていましたが、8人制バレーボールの大会もございました。大町自治会が再度連覇ということで、いろいろ面白い行事でございました。

特に気になったのが、福祉フォーラムの中で、子どもの貧困の話題が出てい

まして、実は秋田県でも昨年の12月に、1万2千人くらいの方に1人親家庭にアンケートを取っているんですね。

実際の回答率は3千7百、収入まで書いてきた方は実際には34.5%、そんなに多くはなかったんですけど、それでも一応の目安になるものではあります。インターネットで美の国秋田からダウンロードできます。

それから、町の福祉課でも子どもの貧困に関する整備計画というものを策定中でございまして、3月末にはできるだろうと思っておりますが、その中でもある一定の方針は出そうとしております。

今朝も福祉課の後藤補佐と話してきましたけれども、ぜひ、この問題は教育委員会とも連携しながら話を進めていただきたいと思っております。

福祉フォーラムの会場の場でも申し上げたのですが、この貧困といい、それから最近、私は好きな言葉ではないんですが、下流老人という言葉がありますけれど、おそらく根っこは同じだろうと思っております。

地域全体が貧しくなっている。世帯所得が減少してきているというのが正直いってありまして、例えばですね、若い方はちょっとわからないかもしれませんが、1年定期で100万円を1年間銀行に入金しますと、だいたい6万円くらい利子が付いていましたね。非課税でね。ということは夫婦で一泊くらいの旅行は毎年行けた。平成4、5年くらいまではそういう時代でした。

ところがバブルが弾けてから、ぐっと金利が下がってきまして、今は超がつくほどの低金利になってですね。これが年金受給者の皆さんの、おじいちゃんおばあちゃん方の財布が、これで大分取り崩しがあつてですね、少なくなってきたと思っておりますよ。

昔、私郵便局長を30年やっていますので、窓口にくる方の皆さんとお話ししました。だいたい皆さんね、通帳に300万円くらい入ってありました。だからお年寄りは大事にされたんですよ。孫に小遣いやっているでしょ。それから郵便貯金なんて10年預けたら2.1倍になりました。

そういうこともあつてですね、私は超低金利が、バブルが弾けた後の金融政策、これが貧しい高齢者の懐からどんどんお金を奪っていったんだろうと思っております。

それと、もうひとつはお米の値段が下がったことですね。今の1万3千円なんて値段は昭和48年ごろの米価です。それが確か概算払いでいくと平成4年・5年頃が一番の高値ですね、2万2千円っていうのは、精算払いも入ってくるとおそらく2万5千円、佐々木さんが一番詳しいと思いますが、2万5千円くらいの時もありましたよね。

佐々木委員
三浦町長

すごいいい時ありましたよね。

いい時ありましたよね。青森で凶作の時にはここら辺で1俵3万円でみんな売ったもんですよ。それで、2町歩もやっていたらちょっとしたボーナスのようなものが兼業農家でも入ってきまして、そんな世帯所得がずっとあつてですね、一家、おじいちゃんおばあちゃん、息子娘夫婦がいて、孫が2人3人いてもね、ゆっくり暮らしていけるくらいの所得があつたと思っております。

それが、米価が下落してきてですね、8,500円というのがありました。どんどん下がってきている。平成10年あたりからですね。

実は秋田県というのはバブルの影響を全然受けていないんですよ。東京でバブルが弾けても、秋田はバブルがなかったですから、バブル弾けないんですよ、それだけ鈍いところなんですよ。

そういう意味で、やはり世帯所得が減少して、ずっと子どもの貧困、秋田が特にひどいという訳ではないと思いますけれど、人口減少になってきている一番の大きな要因は、米に頼り過ぎることです。

秋田県の水田の60%は米ですから、よその県はだいたい20%くらいですので、それで世帯所得がどんどん減っている、ここで増えないので、よそに稼ぎに行かないといけない。それで人口がどんどん社会減で出て行ってしまったというのが、私の生活実感として、そういう感じを持っています。

これは単に地方創生をやったって、なかなか簡単には人口減少は止まらないだろうと思っています。

そして基本的には、皆さんの世帯所得を増やす施策をしなければ人口は増えないだろうと思っていますし、基本的には子どもの貧困だとか、下流老人だとか、高齢者の貧困とかは解決しないのではないかなと、ふと思ったりします。

大変脱線してしまいましたが、今日はこの後ですね、学校再編計画のこの前の検討会での内容と、それから併せて、新年度の平成29年度の予算に、教育委員会へお願いしました奨学金の返還支援制度について、この二つ、そして、その他としましてご協議をお願いしたいという風に思っておりますので、よろしくお願い申し上げまして、まずは開会の挨拶とさせていただきます。

畠山教育次長

ありがとうございました。

次に教育委員長よりご挨拶をお願いいたします。

堀田委員長

皆さん、こんにちは、2月になってもまだまだ寒い日が続いている今日この頃ですけど、皆さん、お元気でなによりです。

私達教育委員は、1月末まで掛かって全ての三種町内の学校訪問を終えました。どこの学校も、教職員と子ども達、それぞれ生き生きと活動している様子を見て、大変嬉しく思ってきたところです。少人数の学校も大勢の学校もそれぞれ頑張っておりました。

この前、学校再編会議がありましたので、この後どうなっていくのかなと心配しているところです。それぞれのところで、地域、保護者の方々の意見、委員の方々、それぞれ熱心に考えて下さいましたけれど、それぞれの立場があるんですよ。そして想いもあります。

でも、私達は子ども達の学びの環境をどのように整えてあげればいいのかあと、真剣に考えて町としての方向もある程度出していかなければいけない時期なんじゃないかなと思っております。町長さんにはこの後、町としての方向性がある程度示していただければと思っているところです。

全ての意見を尊重していければいいのですけれど、子ども達にとってどの環境がいいのか、望ましい環境を整えてあげることが私達に課せられた大きな課

題でないかなと思いますので、本日はよろしくお願ひいたします。

畠山教育次長

ありがとうございました。それでは、議事進行については町長よりお願ひいたします。

三浦町長

それでは、4番、議事録署名員の指名でございますけれど、私の方から指名させていただきますよろしいでしょうか。

委員一同

はい。

三浦町長

それでは水野委員様にお願ひしたいと思っております。

水野委員

はい。

三浦町長

それでは5番の協議事項に入ります。(1)学校の再編について、成田主席主査からお願ひします。

成田主席主査

それでは、私から座って説明させていただきます。

次第をめぐりまして、資料1をご覧ください。三種町立小中学校の再編についてでございます。三種町立小中学校の再編についてということで、今年度の学校再編の経緯をまとめております。

前回の総合教育会議では学校の再編について協議いただきましたが、それを受けまして、その後に行われた教育委員会定例会において、学校再編検討委員会への諮問内容を検討し決定しております。

11月8日には第1回学校再編検討委員会が開催され、11月28日には第2回、小学校の再編について、12月20日には第3回、中学校の再編について、1月23日には第4回検討委員会をこの検討委員会のまとめと答申書について検討しております。

次のページをご覧ください。検討委員の名簿となっております。

前回の総合教育会議では、一般公募として委員3名を募集するというところで、広報により公募しましたが、申し込みがなかったために、保育園の保護者分を増やしております。

委員の内訳は、琴丘山本八竜3地区の学識経験者が1名ずつで3名、小学校のある自治会関係者6名、小中学校保護者9名、保育園保護者5名の計23名の方に委員として検討していただきました。

このほか、教育委員5名と、民生児童委員として鎌田 政司さん、工藤 悠子さん、成田 志津子さんの3名の方にもオブザーバーとしてご出席いただきました。

このような多数の委員にも関わらず大変出席率が良く、積極的な発言もあり、たいへん良い検討委員会だったと思っております。

次のページをご覧ください。審議経過となっております。

第1回目は会長副会長の選出、教育委員会からの諮問、教育長からは現在の小中学校の現状についての説明がありました。また、北教育事務所より講師をお招きしまして、現在の学校統合の情勢や統合の方法、小中連携校及び小中一貫教育などについて講演していただきました。

第2回検討委員会につきましては11月28日に小学校の再編について、琴丘・山本・八竜地域ごとに分かれてのグループ検討により行っております。

第3回検討委員会につきましては、中学校の再編について同じくグループ検討により行いました。前回、山本地域小学校の意見がまとまらなかった為に、第3回検討委員会でも再度行っております。

この前に、教育委員会から下岩川小学校と下岩川保育園の保護者を対象にした統合に関するアンケートを急ぎょ行い、それを第3回目検討委員会で資料として提出しております。

そのような経緯がありましたが、ここでも意見の集約はできませんでした。

平成29年1月23日、第4回目につきましては、第1回から第3回までの検討のまとめとして、答申内容について協議いたしました。

そして、出来たのが次のページからとなります。三種町立学校の再編について（答申）をご覧ください。

ページをめくっていただきますと目次となります。本日の資料といたしましては、資料編につきましては配布しておりませんので、割愛させていただきます

次のページをめくっていただきまして、はじめに、とありますが、ここには三種町の学校再編と取り巻く情勢について、記載しております。この部分は第1回検討委員会と資料編の内容が対応していますが、内容についての詳しい説明は割愛させていただきます。

次のページをご覧ください。総論になります。これは、前段は本町の児童生徒数の推移と、今回の検討委員会のことについて記載しております。

検討会の検討内容といたしまして、中期間が5年、長期間が10年と設定しまして、その期間の学校再編について検討していただきました。

その下、各論 学校の再編について、ですが、ここは読み上げます。

小学校の再編については、琴丘と八竜地域は中長期の期間では現在の学校を存続していくことが望ましいと考えます。山本地域は、再編を「求める」と「求めない」の意見が拮抗しているため、現段階で結論を出すことはできませんでした。今後、地域として意識の統一を図る取り組みが必要であると考えます。という答申となっております。

地域ごとにつきましては記載されているとおりでございます。次のページをご覧ください。

中学校の学校の再編について、読み上げます。

中学校の再編については、中期的には現在の学校を存続していくことが望ましいが、長期的に見た場合には再編が必要になります。ただし、部活動等については、早い時期に学校間連携を構築すべきであると考えます。

ということで、中学校再編の答申となります。地域ごとについては記載されているとおりととなります。

この答申書につきましては、本日午前10時に検討委員会田村会長より答申書として提出していただきまして、それを教育委員会で受理しております。

これを受けまして、本日の定例会において、答申の内容について検討いたしました。それをまとめたものがありますので、読み上げたいと思います。

八竜地域と琴丘地域は統合しないということで一致していて、山本地域は、統合という意見と存続の意見があり、答申は答申として尊重し、学校の再編を考えることが大切です。

地域振興もありますが、それは別の問題で、教育委員会としての役割は子どもの教育環境を第一に考えることが必要であるため、今後の検討については、統合の可能性も考えていくことが必要です。

学校再編検討委員会より出された答申を尊重しながらも、学校によってはまだ統合を急ぐ必要のない児童生徒数のある学校もありますが、これからの児童生徒数の推移をみながら、学校の再編を検討していきたい。また、小規模校でも学力や社会性なども損なわれないような方策、小集団を生かした教育の充実は、今後も必要であると考えます。

答申を尊重して今後何年間はこのまま現状維持をして、デメリットの部分を補いながら、良いところは更に伸ばし、そうした中で、学校の状況を見ながら、再度、再編のことなどを進めていった方が良いと考えます。

今日の教育委員会定例会で、委員の方からこのようなご意見が出されました。これで、私からの説明を終わります。

三種町長

ということで、教育委員会としては結論が出ているんですね。今日の答申どおりでしょうから。

さきほど教育委員長がおっしゃった、あくまでも子どもの視点に立ってという考えがありましたので、どうですか。みなさんの正直なところ、地域振興と切り離すというのが私には良くわかりませんが、今回の議論の中には、それぞれの地域が廃れるという、学校がなくなると廃れるという意見がすごく強いんですね。難しい問題ですね。

例えば、下岩川小学校、小規模校での学校生活はどうなんですか。生き生きしているんですか。元気がないんですか。

堀田委員長

それなりに元気があります。

水野委員

成績がまた良いんですね。すばらしくいいんですね。

佐々木委員

ほんとに一番元気ですよ。一番と言ったらなんですけど、ただ、親御さんが心配しているのは保育園なんです。

堀田委員長

特に保護者の方は、小学校に入ればうちの子は一人だって、男の子だと一人だから、それが何十人の中に入って行ってやっていけるのか、こう心配している保護者が、初回の検討委員会の時に話をされ、切実な訴えでしたよね。

水野委員

なんとなく検討委員会の中では、私は若い方々の意見はほぼ早く統合を望む声だったというふうに印象を受けていて、地域の重鎮の方々は何とか残してくれてという話、どちらも強い意見という印象を受けていましたが、下岩川小学校の父兄にアンケートをとったら、統合しないという意見が上回っていたという調査が出てきて・・・

三浦町長

それは今年の？

鎌田教育長

いやいや、最近のです。

堀田委員長

2回目の検討委員会を終えて、そのアンケートを採ったのですよね。

鎌田教育長 検討委員会で意見が出たわけ、下岩川だけのアンケートを採って下さいという声が出たわけです。

畠山教育次長 それで下岩川小学校と下岩川保育園の保護者の方を対象にアンケートを採りました。

水野委員 それが出てきて、多分、話し合いはもう終わったと思いました。なんとなくそこから意見の争いは、もう、ほとんどなされないまま、うーん、このまま現状維持でいくのかなという流れになったのかなという風には感じています。

堀田委員長 あの結果は私も意外でしたね。もっと保護者の方が保育園の方も統合を望んでいるのかなって思いましたけれど、そうではなかった。

佐々木委員 1回目のアンケートは地域でやったんです。今回は小学校と保育園ということは、現在、既に森岳小学校に行っている方、森岳保育園に行っている方達の意向はどうなっているんだろうなという気はしているんですけど、あの結果ではハーフぐらいでしたね。

水野委員 ちょっと統合しないの方が多かったですよ。

堀田委員長 あの中には、既に森岳小学校に通っている人達は入っていないんですよ。

鎌田教育長 下岩川小学校の保護者じゃないからね。

三浦町長 多少なりとも保護者の意志は存続ということで、現状維持ということですよ。

水野委員 全町のアンケートは断然統合が多かったということですよ。回収率は低いけど、そこは事実ですよ。

三浦町長 最近、能代市のこう、ちらちらと新聞等で情報が入ってきていますけれど、でも、なんか、どちらかという現状のままという感じですよ。どうでしょう、嶋田さん、地域の方々とかは。

嶋田委員 地域振興と学校再編は関係ないような話がありますけれど、下岩川の人達は、ある程度私くらいの年代になってしまうと、どうしても地域が大事という気持ちになりますよね。それで、この委員の方々も地域代表といったそういう方々もいるんで、その方々は多分、学校を無くせば困る、地域が衰退する原因になるんじゃないかという、そういう話だと思いますね。

父兄の方々はどうしても教育条件の良い方に持っていきたいですから統合っていいですか、みんなで切磋琢磨していく環境に置いてもらいたいという、そういう気持ちがあると思うんですよ。したがって、その二つの意見が拮抗したように見えましたね。

結局は一種の先送りみたいになってしまったんですけど、それぞれの考え方に、どちらにも賛同したいというか。それぞれの意見が理解できるというか。

三浦町長 学級構成人数が、40人とかよりは20人くらいの方が、先生が目が行き届く範囲が一番いい訳ですよ。

ところが、あんまり少なくなってくると、それまたちょっと心配だというのがあるんでしょうね。

成田主席主査 これがアンケート結果です。(下岩川小学校・下岩川保育園の統合に関するアンケート結果を町長に提出する)

三浦町長 統合しないで欲しいが多いですね。保育園はまた違うんですね。小学校のほうは統合しないで多いですね。佐々木さん、どう思いますか。

佐々木委員 私はですね、逆にですね、子ども達のことを考えて、子ども達の教育環境を整えた方がいいという気持ちです。それは立場が違えば、逆になるかもしれませんがね。

今の立場から言えば、やはり遅かれ早かれ、そういう少人数をいつまでも続ける訳でもないしね、子どもの成長を考えた場合ですね、統合というのは一つの方法であります。

ただ、この前の会議もですね、やはり全町で考えた場合にはちょっと無理があるのかなという考えもしているんですよ。ただ、じゃあすぐっていう訳にもいかないしね。

もっとこれは、いろんな場でもですね、下岩川と森岳、当面はここを中心にして今後継続的に色々考えていかなければいけないとは思っています。

嶋田委員 あの会議の中でも長期的には、統合、再編は必要だという認識はみんな持っていましたね。

堀田委員長 そうですね。

鎌田教育長 やはり避けて通れないということは皆わかっているんですね。

ただ、今どうかということで、考えてみた場合では、下岩川は人数だけ見た場合35人くらいでね、5年後に28人と4～5人減るんだけど、人数だけ見ればそうだけど、私が先ほども言いましたけれど、下岩川の良さがいっぱいあるんですよ。

そういう良さをどんどん出して行って、子ども達も生き生きしているし、保護者達が心配している社会性とか人間関係能力など、色々心配していることあるんだけど、そういうところは補うことはできると思います。

3小学校で交流したり、更にもっと交流を深めていくという方法もね、町のバスを使いながらね、そうして算数とかそういうのは学校で先生にきめ細やかに教えてもらうとか、そういうのも出来るし、工夫の仕方色々なことが出来ると思いますので、私は今すぐというのは、個人的にはあまり賛成できない一人です。

堀田委員長 答申でもこのように出ていますし、再編会議の中で結果が出ましたので、今1～2年どうのこうのじゃなくて、3年くらいはそのままに現状維持になるのかな。その後では、やはり統合を考えていかなければいけないなど、お互いに工夫しながら、教育長さんが学校長に働きかけて、一緒に活動している部分、それぞれ少人数でやらなければいけないことなども進めておりますので、3年間はこのままでいった方がいいのかなと思います。

その後で考えていった方がいいのかなと、子ども達の将来のためにもいいんじゃないかなと考えています。

三浦町長 3年後といえば学習指導要領も大分変わりますよね。教科として小学校3年生から英語になるんですか。

堀田委員長 もう3年、2020年からですね。

私立中学校を受験する子が増えていますよね。その後の大学入試に備えて、アクティブラーニングをやるというのね、もう、私立を先回りしてでもやるっていうんですよね。中学校の受験はですね。

鎌田教育長

私達の町からもですね、別の学校を選んで町から出て行く、中学校進学で付属中や南中学校に進む子が出てきています。

どういう風な変化が起きてくるのかなどは予測できないので、その都度、こういう会議の中で話題にしていきながら、やっていくべきだと思います。

隣の市では30人切ればどうだとか話しているんだけど、ああいう人数で区切らないでね。

三浦町長

子ども達により良い教育環境をとといういことで、人数で区切るのではなくて、中身でやっていくと。先生のね、外国語講師入れたりとか、教育の質を高めていくということで、よろしいですか。というかそうならざる得ない、ということですね。

あと、山本地区の3小学校は既に修学旅行は一緒に行ったりとか、クラブ活動もスポ小も一緒に一つのチームで野球部なんかは作っていますし、バスケットボールはゴールデンヒルズですよね。

鎌田教育長

私が出した資料をちょっと、町長が今話題にしたから、先ほど委員の皆さんにも配りましたけれど、今、どういうことをやっているか、またどういうことが可能かということ私を考えてつくりました。

小さい集団でやっているところ、左側でありますけれども、非常に丁寧にきめ細かく出来ていると思います。

右側のほうの保護者とかは大きい学校にいて、もっと社会性とか人間関係コミュニケーション能力など高めてほしいと思っているという人もいるけど、こういうことも出来るんですよ。

そして現在やっていることもたくさんあるんです。

中学校区の小学校連携というところ、上から2つ目、実践というところを見てくださいれば、修学旅行とか宿泊研修とか、例えばサンドクラフトのクリーンアップなどは浜口小学校、湖北小学校、八竜中学校の3校で行ったりね。

この後、マラソン大会なども可能だろうし、特に一番上に書いているんだけど、体育や音楽、特別活動、これはね、町のバスを利用すれば出来るんですよ。

年間30時間くらいやるって言えば可能なんですよ。

こういうことを計画していきながら、保護者が心配している大きい集団で身に付ける力も出来ると思うし、また、普段学校にいてきめ細かく出来ることがあるし、そこあたりは、さっき町長が言った質を高めていく、それに取りかかって、それを子ども保護者・地域に説明しながらやっていくことも出来るんじゃないかと思うんだけど、この前の検討委員会でも学校間連携という言葉が盛んに出ていたんですよ。

連携を深めて色々やっている。こういう連携が、私達の町では今も行われているし、可能なんですよ。

嶋田委員

昔から石倉山のキャンプ場で、3つの小学校の合同のキャンプをやっている

したね。

鎌田教育長

今は町全部に広げました。小学生のね。

嶋田委員

いいことですね。いずれ、同じ中学校に行くんですからね。

三浦町長

そうすれば、(1)の学校の再編につきましては、答申を尊重しながら、3年くらいは様子を見ながら時期を見て、また再編を検討する。また3年後には再編の話が出てくると思いますので、そう、まとめてよろしいでしょうか。

委員一同

はい。

三浦町長

それでは、次に進んでもよろしいでしょうか。(2)の秋田県三種町奨学金返還助成制度(案)について、畠山次長のほうからお願いいたします。

畠山教育次長

それでは、三種町奨学金返還助成制度ですが、若年層の定住促進を目的に奨学金を受けていた学生が、地域の企業等に就職した場合、奨学金の返済額を助成する制度であります。

県が県内就職者を対象に今年度創設した奨学金返還助成制度に、町が県制度へ上乘せし、更に終了後、助成期間を延長する形で実施します。

はじめに、三種町助成制度(案)の前に、秋田県が来年度から行う助成制度について、説明したいと思います。助成制度が日本学生支援機構、育英会、県内の市町村の奨学金を借りた方に平成29年度から助成するものですが、実際は平成29年度の返還実績をみて、30年度から助成するものであります。

要件として、28年度中に大学を終えた方及び中退した方などで、どれぐらい助成するのかということですが、3年間で3分の2、特定の職種であれば全額ということで、最高額が20万円となっております。

資料をご覧ください。三種町の制度であります。要件については、三種町の奨学金を平成29年以降から2年以上借りていることが条件であります。それから償還開始年度の4月1日以降に居住しているということ、就労に関しては起業している方、農林漁業等に従事している方、民間企業に就職している方、これについては正規雇用とは限りません。そして公務員等の正規雇用は除くということですが、ただし非正規職員は対象となります。また、町の税金とか分担金とかの滞納がないことなどとなります。

これに該当した場合には助成率は年返還額の3分の1、上限が10万円、償還が終了するまで最長10年間ということになります。この理由ですが、県の助成制度に該当した場合、3分の2ですので、3分の1ですと3年間は奨学金返還額の全額となります。以降7年間は3分の1助成するということです。詳細は後で資料の右側で説明します。

応募の方法について、申請の受付は平成32年4月からです。平成29年に借りた方は、最短で2年間借りて平成31年に返還が始まりますが、平成31年の返還実績を見て、翌年度の平成32年から助成するということです。例えば4年の大学ですと29年から32年まで借りて、33年の償還の実績を見て34年から助成することになります。

右側の資料をご覧ください。三種町では返還が始まった年は6か月間据え置くということになっておりまして、償還回数は年4回となりますので、1回目と

2回目は償還しなくても良いこととなります。最長で10年間となっております。本人が繰上償還することは可能ですが、助成額については1年分の額が10万円となります。

次の円グラフに進みますが、三種町の奨学金を270万円借りた時、三種町から90万円の助成を受けられます。県から3年間で366千円の助成が受けられまして、助成合計1,266千円で実質負担額は1,434千円となります。

次に、先ほど述べました県指定の職種に就職している場合には、3年間は10/10となりますので、三種町の助成金額が850千円、県から550千円、計1,400千円、実質負担額は1,300千円となります。

ちなみに県の制度が出来てから、能代市と八峰町でも助成を行うということで新聞報道でも出ておりました。

三種町との一番の違いは、三種町は三種町の奨学金だけ、能代市と八峰町は育英会とか支援機構などの奨学金も対象にするということでもあります。

能代市は、県の助成制度が終わってから最高10年間、1年間の上限108千円、ただし能代市は償還期間が20年間となりますので、そういう制度になります。

八峰町は県が3年間対象となる場合のみといたしまして、年間最大66千円ということです。最大に借りても1,920千円となりますので12年間で償還するということとなります。

いずれ各市町村、奨学金貸付金の金額が違うので、一概に上限がいくらとはいえませんが、秋田県の場合は、助成制度は29年度の1年間の実施としかいっておりません。能代市は5年間ということです。

奨学金の対象が非常に難しいところですが、まずは（案）ですので、よろしく願いいたします。

三浦町長

はい、ただいま教育次長から説明がございましたけど、なかなかずっと1回では頭の中に入ってこないと思いますけれど、皆様からご質問とかはございませんでしょうか。

佐々木委員

さきほど次長から、三種町に移住し就職ということを書いていましたよね。

畠山教育次長

三種町に居住していることです。就職は他市町村でもいいです。

佐々木委員

それでは能代市に就職して三種町に住んでいるのはいいのですね。

畠山教育次長

はい、ただ、住所を置いたまま東京などに就職している方も、たまにいますので、あくまで居住実態のある方となります。

佐々木委員

住所があるないに関わらず、住んでいるというのが大事だと思います。それじゃないとね、この制度がいい加減な制度になってしまいます。

堀田委員長

そこはしっかり決めておかないといけませんね。

三浦町長

そうですね。それからですね、今回の対象は三種町の奨学金としていますが、実は三種町の奨学金って、貸付数が少ないですよ。

鎌田教育長

何人もいないです。

三浦町長

だいたい県の育英会の奨学金を借りている方が多い訳ですよ。例えば育英

会まで範囲を広げてはダメなの。

畠山教育次長

その辺がちょっと情報を掴めないところですよ。育英会から借りているのが何人いるのか、29年度から秋田県の助成制度が始まりますので、その情報は教えてくれるということでしたので、その29年度にいくら申請するのかを見てください、うちの方では状況がわかりません。

三浦町長

借りる方からすれば、育英会まで広げた方が借りやすい訳だね。はっきり言うと、三種町の奨学金はあんまり知られていないんですよ。一昨年ちょっと増やしたけれど、使っている人、新規で申し込む人、年に4~5人しかいないよね。だんだん返済終わって残っている人も少ないじゃないですかね。

堀田委員長

プライバシーの問題もあるから、なかなか育英会からどの方がどの程度借りているかというのは把握できないんでしょう。

嶋田委員

町の課題として、これから人口減少というのが気になる場所ですけど、そのためにも育英会でもなんでも、そういう人達が地元に住んでくれたら、それなりに町から援助すると、そういう風にしてもらったら良いと思いますね。

育英会でもなんでも、奨学金を借りている人がいたら申請してもらえば対応できますよね。

佐々木委員

申請を条件にすれば、わからないことはないと思うんですが。

嶋田委員

この町にとにかく住んでもらわないことにはね。

佐々木委員

それが一番の目的です。

三浦町長

次長が心配しているのは、人数がわからないので、予算をどれくらいとればいいのかわからないから心配だということですよ。

あとは腹のくくり方ですよ。

水野委員

今の時代だとすごい数の人が借りていますよね。ほんとに借りている人がたくさんいると思います。大学行く人はほとんど借りますよね。

三浦町長

最初の入学の初年度に300万円くらい必要なんですよ。アパートの敷金、入学金だと、最初はみんなね銀行ローンとかから借りると思うんですよ。その後ですよ。毎月の仕送りをどうするか。たぶん需要はあると思うんですよ。

三種町の奨学金を借りた人を限定してしまうと、かえって、逆にがっかりさせる気がしてね、最初は次長にいいって言っただけでも、今話聞いていてようやくわかった。

堀田委員長

育英会の借入の概算人数とか教えてくれないものなのかしら。名前は、個人情報には要らないにしても、三種町にそういう方が何人いますよとか教えてくれないのかしら。

畠山教育次長

県の方では29年度から助成制度が始まることで申込みをしますよね。その名前と住所は教えてくれるそうです。ですので、1年経たないとわからないということです。その県の育英会とか該当させるとすると、三種町の奨学金を29年度から償還始まる人が該当になってきますので、そこが変わってきます。

堀田委員長

わずかな金額の基金ですものね。

畠山教育次長

ちなみに29年度から三種町の奨学金で償還が始まる人は2名だけです。学生支援機構とか育英会とか入れるとすれば、今後、最長10年がいいのかどう

か、その辺を考えなければいけないということです。

三浦町長 今、町の高校生の進学者は何人くらいいますか。今高校生って何人くらいいますか。

鎌田教育長 中学校の学年の数と同じだろうから、120～130人くらいかな。進学率7割くらいなのかな。

三浦町長 6割行ったとして72名くらい、どうですか、どれくらい必要ですか。

畠山教育次長 70人として、三種町に戻ってくる確率として2割くらいとして14人。1人10万円が上限なので年間140万円です。

ちなみに今、三種町で返還している人が90名なんですよ。そのうち三種町にいる人が20人、その返還額が180万円。これを対象とした場合でも3割助成なので60万円になると思いますので、実際に支援機構とか育英会、そして三種町奨学金の平成29年度から返還を開始する人へ助成しても200万円はいかないと思います。

三浦町長 町の方でお金をあげますよと。それでも町に住んで税金を納めてくれればよいよね。

佐々木委員 戻ってくるだけで凄いことですね。1人でも2人でも、それが行く行くね、奥さんをもって子どもが出来てねと。

畠山教育次長 公務員を除くと更に少なくなります。

三浦町長 私が思うに、ふるさと納税って町で7千万円くらいなんですかね、去年は1億1千万円くらいあったんですがね、今年は震災の方に行っていて、たぶん年度末には8千万円程になると思うんですけど、あれ町に残るのは2割5分くらいですか。1億円でも2千5百万円から3千万円くらいでしょう。

木村総務課長 そうです。

三浦町長 返礼品をかなり手厚くしていますので、私もふるさと納税のああゆう部分なんてはね、あれで儲けようと思ってやっているわけではなくてね。

鎌田教育長 今ふるさと納税は何の目的に使ってるんですか。

木村総務課長 教育関係もあります。今回の新しい3月1日号の広報にです。

三浦町長 教育関係もありますか。

木村総務課長 給食関係があります。

三浦町長 いずれ一般財源に入っちゃうんで、色分けはしてませんが、それでも福祉・教育関係には使っていると・・・

木村総務課長 基金に積んでいます。

三浦町長 そういうことでありますので、さっきの読みが正しいとすれば、帰ってくる人は2割とか、それぐらいで帰ってきてくれるのであれば、現状のままで助成は出来るんじゃないかなと思いますけれどね。

嶋田委員 人がね、一生で使うお金は1億円ぐらいかかるらしいです。そういった観点から言うと、その人が1人いることによって1億円の消費があるということですから、90万円～100万円とかは安いもんですよ。

堀田委員長 それでね、帰って来てくれるんだったらね。

三浦町長 29年度から償還が始まる人を対象とするのであれば、秋田県の制度に申し

込んだ人を対象にするということであれば、教育委員会もやりやすいでしょう。

畠山教育次長

やりやすいです。

三浦町長

そのための財源の確保は？

畠山教育次長

30年度からなので。

三浦町長

すぐ始まる訳じゃないんだ。

堀田委員長

償還が始まってから1年間は実績を見るということですよ。

畠山教育次長

実際の予算は30年度からになります。

三浦町長

今すぐ予算を補正するという訳ではないんですね。それで、八峰町さんや能代市さんは県の助成と併せて行くということ？

畠山教育次長

能代市は県の3年間助成を受けて、それが終わってから能代市独自の助成を10年間する。八峰町は、秋田県の3年間の部分だけを3年間補助します。だから、八峰町は助成額が少ないです。

ですから、八峰町は3年間、能代市は県の助成が終わってから10年間助成するので13年間、三種町は10年間となります。

八峰町では特別に29年度から償還が始まる人のほかに、八峰町の奨学金を既に借りている人を対象に5分の1を助成することになっています。

基本的には、これから29年から償還が始まる人でいいのではないかと思います。

三浦町長

きれいなカラーコピーの資料が届きましたが、ふるさと納税ですか。活用事例ですね。学校給食費減免事業2,700万円。あれ、こんなに使っているの。

木村総務課長

はい、28年度です。

三浦町長

あっそうか、ふるさと納税はその金額で入って、返礼品は別に予算とっているから差引じゃないんだもんね。ふるさと納税で1億円入ればそのまま1億円入るんだもんね。ここから削って払っているわけではないんだもんね。

堀田委員長

それで間にあっているんですね。

三浦町長

トータルでは厳しいでしょう。

堀田委員長

返礼品については過剰気味だとという声がでてましたね。

鎌田教育長

この前新聞に載っていましたが、各市町村も教育関係に多く使っているよね。福祉教育の方にふるさと納税のお金が回っている。

三浦町長

この会の意見としては、拡充した方がいいということですよ。

畠山教育次長

わかりました。

三浦町長

事務局案を覆して大変申し訳ないんだけど。

畠山教育次長

全員協議会で提出しようと思っていましたので訂正します。額とか助成率とかはこれでよろしいでしょうか。

三浦町長

多ければ多いほどいいでしょうけれどもね、県の助成もあることですよ。ということで、10年間、3分の1ということで提案したいと思っております。

それから、その他は何かありますか。

畠山教育次長

事務局からは特別ございません。

嶋田委員

最近、三種町と台湾との交流が盛んでありますよね。子ども達にはね、国際

的な視野を広げるというチャンスがあってももいいと思うんですけど、非常に親日であるということで、危ない所でもないの、子ども達の交流とかは出来ないものですかね。

三浦町長

たいへん結構なことだと思います。

今、台湾の南投県と交流してまして、南投県は台北から車で2時間半くらいですが、新幹線で1時間くらい、240～250キロぐらいの距離ですね。唯一内陸だけの県でありまして、日月潭という湖や、玉山という標高3,900mと富士山より高い、いわゆるニイタカヤマがあります。農業を主体とした県です。人口50万人で、農業と観光業と特に竹細工、工芸と凄く文化的であり、農業県なので私は非常に親近感があります。

現在は文化局と交流してしますので、教育関係ではないんですけど、子ども同士の行き来が出来ればなあと考えています。

今はサンドクラフトを通して交流を行ってまして、今年、県の知事さんもサンドクラフトにおいでになるということで、台湾にも行きたいという話をしていました。

大人の交流も結構なんですけれど、子どもさん方のもね、海を渡るっていうのは遅くなって帰ってきますから。県内の高校生達は台湾と姉妹校という形でやっています。そういう意味では、中学校でも海外志向がでてくる年齢の時にでも、学校の代表でもいいので、出来れば何人でも行かせてあげたいなとは思っています。

以前、琴丘時代にはイギリスとですよ。

鎌田教育長

向こうの方々が雪の季節に来てね、こっちの方々が夏に訪問して交流していました。

三浦町長

台湾の方は雪と温泉と桜が大好きなんですよ。

嶋田委員

それからもう一ついいですか。ミタネーションっていうグループがあるんですが、本当に素晴らしい活動をされている。ああいう風に地域を大事にするという若人というんですか、そういった方々をもっともって育てるために、ふるさと教育は必要なんですけれど、そういう人材をですね、地域のために育てる術というかそういうのを、みんなで知恵を出してがんばってもいいような気がします。

三浦町長

こういうのは教育委員会というより、生涯学習係で担当するんでしょうけどね。

私も八竜町時代に「ろばた塾」というのをやっていたんですけど、私が一番年齢が下で33歳の時でしたけれど、会長をやっていたね。上が70代で、秋から寒くなってきてから冬の間だけ、月1回くらいのペースで、月千円会費で、外部から講師を呼んで来てやっていた。それで結構色々な人と知り合いになりました。

その中からイベントをやる人も出てきましたし、町が元気な頃じゃなかったかなと思っていますけれども、最近見ていると、町内の高校生の姿が見えないのかな、という気がしますね。何をしているんだろうなと思います。

嶋田委員
三浦町長

家でスマートフォンとか弄っているんですかね。パソコンとか。
高校生の人達の力を発揮できるような場所を提供できればいいなと思います。

それから、先ほど言ったミタネーションのような若い人達、それはちょっと動きがありまして、この前石倉山で、三種で遊びたいということで、町の元気づくり支援事業補助金の50万円を使ってやっています。

元気づくり支援事業は来年度で最後になりますが、なかなか、昔みたいに、自分の仕事と生活で精いっぱい、外に出てってというのが難しくなったという現実ですね。

嶋田委員

教育委員会ではね、地域の伝統文化を学ぼうとか、先人とか地元の偉い人達を学ぼうというのが大事だということでやっておりますが、その中で、地元がわかると地元が好きになるという関係もありまして、地元のことを知ることによって、若い人達も地元に対してがんばろう、働きかけようという気持ちになるかもしれない。

三浦町長

これは商工会長さんは、青年部の婚活なんかも3回ぐらいやっていますよね。今はこの青年会というのが無くなりましたよね。今地域で青年会というのはないですね。ちょっとさみしい感じがします。水野委員とか長信田とかはいかがですか。

水野委員

私達世代も日々が忙し過ぎて、遊ぶ余裕がない、呑んだりなんだりというのがなくて、職員を見ているもそういうことをしない世代ですよ。こういうのがどんどん無くなって行くと、こう孤立化して大変だなと思います。

堀田委員長

大口地区だと若い人達の青年会、中年会ですか、自治会のほかに集まりは少しはあるんですが、そういうのが減少してきている状況ですもんね。自治会長さんを育成するにも、なかなか人材がないという話です。

水野委員

このあいだ、新聞に載っていたんですが、未来をつくる若者オブザイヤーということで、伊藤くんという方が載っていて、秋田大学時代に若者達の集団を立ち上げて、地域に出ていって地域のために何かをするような、お客様で行って何かやるというのではなくて、どんどん提案して一緒に街づくりをする活動をして、いろいろ広げてきたことで、内閣総理大臣賞を受賞したというのが新聞に載っていました。

その方とちょっと交流したら、今、色々な高校生世代を育てたいということで、能代でも能代ユースカレッジという団体をつくって現役大学生や高校生で活動している。すばらしいなあと思って、今度うちの高校生にも激とばしてくれって言って来てもらおうと思ったら、ワークショップをやってくれるって。

若者達が今の高校生達の心に火をつけるような、とにかく色々な自分を語ったり、未来についてあまり型にとらわれず話し合ったり、そういうワークショップをやろうということで、今度やるんですけれど、そういう活動もどんどん出来ていいなあと思っています。

若い人がどんどん動いて、大人任せにしないで、子ども達が動くぞという力を引っ張ってあげられる、ちょっと先輩ぐらいの若い人がいるというのがいい

なあと思います。

三浦町長

この前、福祉フォーラムでも、学習支援やるにしても退職したOBの先生よりは、ちょっと兄さんの大学生あたりがやってくれば、すごくパッとモノを言うんだそうです。頼れる人が非常に大事だという話をしていますけれど、長信田さんもけっこう色々やっているでしょう。3月には発表会もあるでしょうし。

佐々木委員

町長が新春インタビューで出会いの場ということを言われていたんですけど、結構、結婚しない若い者というか、40代くらいの方達がありますよね。

さっきもお話があったんですけど、出会いの場がない、昔は青年会とかいろんな出会いがあつてね、遊びなり飲み会とかあったんですよ。そういうのが無くなったのか、個人の価値観が変わったのか、非常に結婚しない方が増えてきましたね。もちろん子どもを産むだけではなく、その前の段階が大変だなあと思います。

三浦町長

ほんとにね、役場職員の中にもいるんですよ。でも私が言うとパワハラになるので言えませんが、でも、あんまりこれを口つぐんじやうとだめなんだよね。大人もね、ある程度、背中を押してやる、バーンと叩いて励ますのも必要だろうし、それから、みなさん、お利口さんなんじゃないかな。

私らの若いころはとにかく、彼女を見つけることが最初で、そうやって動いたものなんだけど、断られるのが怖いのかな、断られてもへっちゃらなくらいの気持ちでないとね、アタックしないとなかなか彼女をゲットできないですよ。

堀田委員長

それ以外の楽しめることがいっぱいあるもんね。

佐々木委員

あとひとつ、山本支所の新しい庁舎ですね。公民館といいますかね。なんか子育ての部屋を作るのかどうか。

三浦町長

子育ての部屋といいますか、必ずそういう部屋、キッズルームみたいなものは作るんだと思います。

佐々木委員

三種町でも、そういう場所がないですよ。あつてもそれぞれ保育園で1時間半とかやっているんですよ。八竜地区の方でも改善センターでやっているんですけど、なかなか行事があればできない、税の申告会場なってるから駄目だとかね。比較的子育て世代が、保育園に入る前の方が親子一緒に遊べるころ、それも朝から晩まで、月曜日から金曜日までね、そういうのがあればいいのかな。そういうのも発信されているんですよ。

三浦町長

よくぞおっしゃってくれました。私もね、そう思っています。

実は現在の山本支所は用途外使用なんですよ。本来は農村環境改善センターなんですよ。農林水産省のお金で建てたもので、本来の目的に返さなければいけないんですよ。現状に復帰すると。

合併した時、施設が山本地区になかったものですから、とりあえず改装して庁舎にしたんですけど、本来の目的に返せといわれているんです。それで、にわかにはですね、山本公民館の建設と山本支所の合築という、琴丘支所と同じ形で話が出てきたんですよ。じゃあ、残った改善センターをどうするのってい

うことですけれども、山本地区は体育館もあるし、ふるさと文化館もある。文化的施設はあるんですけれども、公民館も新設されるし、同じような施設じゃしょうがないんで、完全に全館ですね、子育て支援の各年齢層の遊具が揃うように、全フロアをそういう形にすればどうかと。

よく誕生祝い金贈呈の時に、毎月月末になると第2第3子の方に合わせてお話しすると、雨の日や雪の日に親子で遊べる場所が欲しい、みんな、ぼんぼこ山とか東北電力のエナジウムパークだとか、御所野のジャスコの方に行ってるんですね。やっぱり町内にそういうのが欲しい。公園的なものはゆうばるのところにございますね。カントリーパークがあります。スカルパ公園もありますけど、屋内のものがなくて、そういうものはどうかと思います。

佐々木委員

非常にいいアイデアですね、その中に遊びもそうなんだけど、そこに例えば相談できる人、そういうのも配置すれば、より良く子育て支援としてできるのかなと思っています。

三浦町長

そうですね。私、3年前位になるけれども、横手市のわいわいプラザというところが駅前でありまして、1階が公民館施設、2階にそういうワンフロア全部が、子ども達が遊べる場所がありまして、そこに職員もいるんですよ。子育て相談という場所もありまして、3階は図書館となっていて、最上階は秋大の放送大学になっていましたね。そういうところもありましたので、参考になるかなあという気がします。

鎌田教育長

山本支所の子育て施設は目的外使用にならないんですか。

三浦町長

そちらの方は大丈夫です。総務課でも確認しています。

木村総務課長

OK取っておりますので、いつでもやることができます。

鎌田教育長

そういうのは、ぜひとも進めて欲しいですね。医療費もタダなので、子どもがいっぱい三種町に集まって欲しいですね。

三浦町長

医療費は、福祉医療費を18歳まで延しましたけれど、意外と支出は増えていないんですよ。思ったほどは増えていなくて、狙いどおりだったんですけど、まあ安心感ですよ。いざという時に自前出さなくても病院行けるという安心感がある。

佐々木委員

ましてPR効果がありますしね。ここの町はね、こういうことまで支援していますということですよ。そういうのを目的に移住してくる方もいるかもしれないですね。

三浦町長

当初の予定の時刻にちょうどなったようですけど、今日の話の中でなにか付け加えて話すことはありませんか。

堀田委員長

学校の再編の方は、3年くらいは現状維持でしようがないなという結論になりましたが、この後、安心して学習できるようにしていただければいいと思います。

図書費も倍増してくださるということでしたので。実際、八竜の図書館の本も古くなってきましたのでね。皆さん寄付して下さった本ばかりで、かなり汚れてもおりますし、琴丘公民館の新しい図書に比べれば落ちるんですよ。もう少し充実していただければ、住民の方の利用も更に増えるんじゃないかなと

思います。

八竜改善センターの階段だけはどうにもならないんでしょうかね。急な上に段数が多いので、あれがネックになっております。下の階にも本を置いてくださっているのでもいいかなとは思っています。

三浦町長
嶋田委員

嶋田委員なにかありませんか。

さっきからいろんな思うことを話していますけれども、これからも、ぜひ、地域が元気になるような、そういう風にすすめたいですね。

三浦町長

これからも教育委員会のお知恵を借りながら進めていきたいと思います。佐々木さん最後になにか。

佐々木委員

さっきの学校統合もそうなんですけれど、子育てを含めた子どもを育てるということですね、非常に予算も掛かるし大変なことなんですけれど、ただ、今後、小さなことをやっていて生きてくるのが必ずくると思いますので、地道に確実に進めていくべきかなと思います。

三浦町長
水野委員

水野先生お願いします。

学校の再編に関しては、私も今回会議に出させていただいて、当事者の切実な声というのがたくさん聞かれたというのが現実だと思うので、今の現状はこういう風に決まったんだけど、なんとなくこう、後にまわすということではなく、積極的にデメリットを減らすというか、この友達がいないとか、多様な意見が聞かれないとか、少しでも、教育委員のほうでデメリットを減らすような動きを、明確に打ち出していければいいのかなあという風に思っています。

三浦町長

少人数の良さ、そしてデメリットもありますんで、デメリットの部分を含め、逆にうまく転換できればいいですよ。人数の少ないのを強みにするような、災い転じて福となすような考え方になるかもしれませんね。

鎌田教育長さん、お願いします。

鎌田教育長

もうみんな出ているんだけど、すばらしい私達の町、教育環境があるので、それをうまく活用して子ども達が生き生きするような事業、教育環境の最大の環境は人だと思うので、私も学校の先生方に理解してもらって進めていきたいなと思っています。

教育は人なり、何々は人なりですよ。なんでも人ですよ。人の質を上げていくようなことをやっていきたと思います。

三浦町長

今日は大変長時間にわたりまして、活発なお話をいただきまして、ありがとうございました。

今年度の総合教育会議はこれで終了となります。次は新年度になるだろうと思いますけれど、また新年度もよろしくお願ひしたいと思います。

以上をもちまして総合教育会議を終わります。

ありがとうございました。